

2020.10-12

資産運用状況
Quarterly Report

金属事業企業年金基金

用語の解説

- 修正総合利回り

資産の運用成果を評価する評価基準の一つで、簿価ベースの平均残高利回りである総合利回りの分母に前期末の評価損益および未収収益を加えることによってより時価に近い金額に修正した収益率。

計算式：修正総合利回り(%) = (実現損益 + 未収収益増減 + 評価損益増減) / (元本平均残高 + 前期末未収収益 + 前期末評価損益) × 100

- ベンチマーク

運用成果を評価する際に相対比較の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指標を用います。

国内債券・・・NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが算出・公表する日本の公募債券流通市場全体の投資収益指数で、1983年(昭和58年)12月末を100として指数化したもの。

国内株式・・・TOPIX(配当込み)

東京証券取引所が東証一部に上場する国内株の全銘柄の時価総額を基に算出する株価指数で、1968年(昭和43年)1月4日を100として算出したもの。

外国債券・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本)

ロンドン証券取引所グループのFTSEラッセルが算出・公表する世界主要国の国債の投資収益指数で、1984年(昭和59年)12月末を100として算出したもの。

外国株式・・・MSCI-KOKUSAI

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI Inc)が算出・公表する国際的な株価指数で、日本を除く先進国22ヵ国の上場企業の株価指数で構成。

2020年度第3四半期運用状況

2020年度第3四半期の内外株式市場は、10月は、欧米での感染者再拡大による経済正常化の遅れが懸念されたことなどから下落しました。11月は、米大統領選挙・議会選挙の結果、米国の政策が急転換するとの懸念が和らいだことや、新型コロナウイルスのワクチン開発で良好な治験結果が報告されたことから日経平均は約29年半ぶりに2万6000円台を回復、NYダウも過去最高値を更新するなど大幅に上昇しました。12月は、欧米でワクチン接種が開始され、国内でもワクチン実用化への期待が高まったことなどから内外株式は一段高となり、日経平均は2万7400円台まで上昇、NYダウも3万ドル台まで続伸しました。

このように、2020年度第3四半期の内外株式市場は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う世界経済の大幅な減速など、実体経済とは大きく乖離した形での上昇となりました。

こうした中、当基金では、財政再計算に当たる本年度において掛金の追加拠出という不測の事態を確実に回避するため、2020年10月8日付で年金資産のキャッシュ化ルールを発動し、みずほ信託銀行委託の私募REITを除く他の資産を全てキャッシュ化した結果、第3四半期の収益率は、0.86%、4月から12月末までの年度通期では、パッシブ資産が7.32%、オルタナティブ資産が2.47%、両資産を合わせた資産全体で6.77%となっています。

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	(注) 5.24	4.22	2.04	0.86		6.77
収益額(千円)	96,326	104,529	57,375	26,115		188,019
期中元本平均残高(千円)	1,838,589	2,474,935	2,809,732	3,040,638		2,776,193
期末運用資産額(千円)	1,927,575	2,893,778	3,026,347	3,123,271		3,123,271

(注) 収益率は修正総合利回り。2019年度決算上の時価ベース利回りは5.67%です。

1. 2020年度 第3四半期運用環境

【各市場の動き（10月～12月）】

国内債券 :10月の10年国債利回りは、狭いレンジ内で一進一退の推移が続き、月末にかけては、米経済指標の改善や米大統領選挙を控えたポジション調整の動きから0.04%に上昇（債券価格は下落）しました。11月は、米長期金利の低下や新型コロナウイルス感染者数拡大による国内景気の先行き不透明感の高まりなどから0.03%に低下（債券価格は上昇）しました。12月は、一時0.00%まで低下しましたが、月末にかけてはやや上昇し0.02%で終わりました。

国内株式 :10月は、上旬は米国株式上昇や第3次補正による経済対策への期待を背景に上昇しましたが、中旬以降は、欧米での新型コロナウイルス感染再拡大による経済正常化の遅れが懸念されたことで下落しました。11月は、米大統領・議会選挙の結果を受けて米国の政策が急転換するとの懸念が和らいだことや、新型コロナウイルスのワクチン開発で良好な治験結果が報告されたことを背景に約29年半ぶりに2万6000円台まで上昇しました。12月は、欧米で新型コロナウイルスのワクチン接種が開始され、国内でもワクチン実用化への期待が高まったことなどを受け一段高の展開となり、日経平均は2万7400円台半ばで終わりました。

外国債券 :米国10年国債利回りは、10月は11月の米大統領選挙・議会選挙で民主党が優勢との見方が徐々に強まったことを受け、大規模な財政支出の拡大が実現するとの思惑や国債増発懸念から0.88%まで上昇しました。11月は、米国内での新型コロナウイルスの新規感染者急増を受けた先行きの景気減速懸念から利回りは0.84%に低下しました。12月は、コロナワクチンの接種開始や追加経済対策が成立するとの観測から利回りは0.9%台に上昇しました。

外国株式 :米国株式は、10月は与野党協議の行き詰まりから追加経済対策の成立が遠のいたことや、欧米での新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化したことなどを受け大幅に下落しました。11月は、米大統領選挙で民主党のバイデン氏が勝利した一方、議会は上下院で多数党が分かれる見通しとなり、米国の政策が急転換するとの懸念が和らいだことや、良好なワクチンの治験結果からNYダウは2万9600ドル台まで上昇しました。12月は、ワクチン接種が開始されたことや、9千億ドル規模の追加経済支援策が成立したことなどを背景に過去最高値を更新し、3万600ドル台に乘せました。

◇参考指標

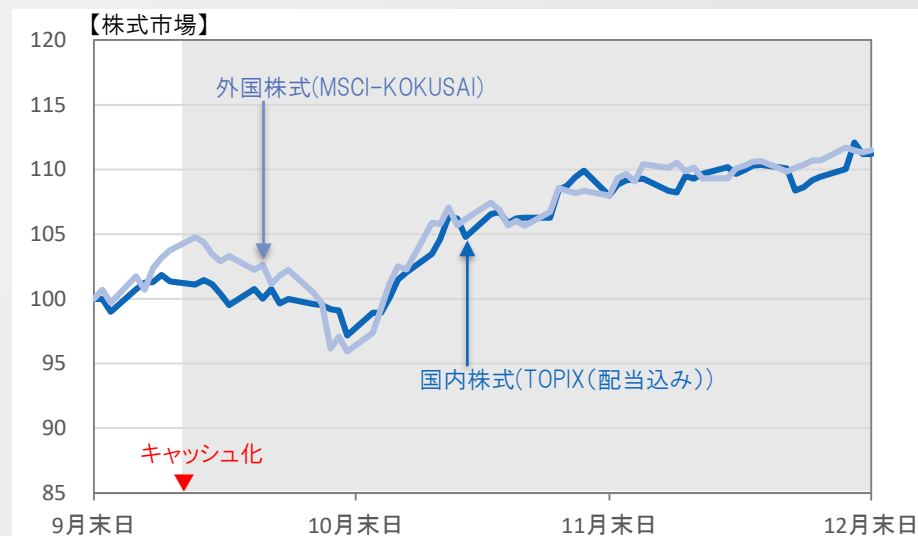
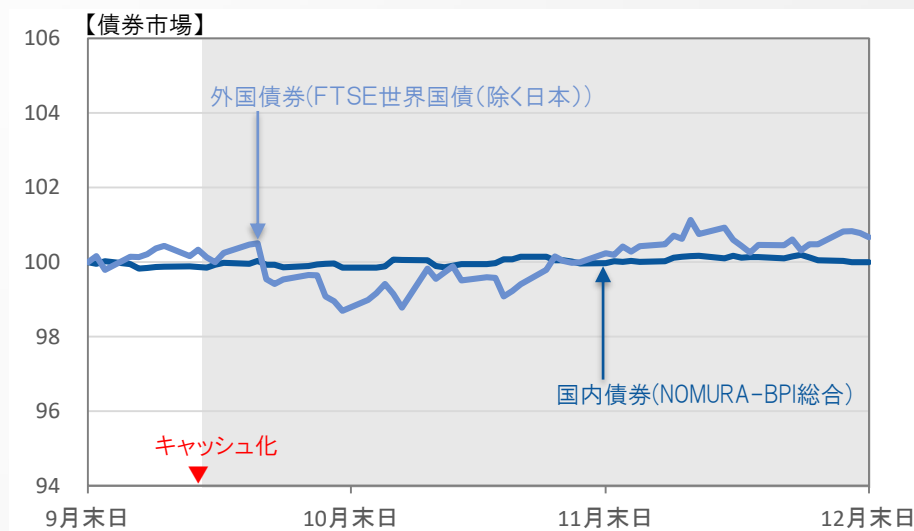
		2020年3月末	2020年9月末	2020年10月末	2020年11月末	2020年12月末
国内債券	10年国債利回り (%)	0.01	0.02	0.04	0.03	0.02
	TOPIX配当込み (ポイント)	2,167.60	2,536.14	2,464.21	2,738.72	2,819.93
国内株式	日経平均株価 (円)	18,917.01	23,185.12	22,977.13	26,433.62	27,444.17
	米国10年国債利回り (%)	0.67	0.68	0.88	0.84	0.92
外国債券	ドイツ10年国債利回り (%)	-0.47	-0.52	-0.63	-0.57	-0.57
	NYダウ (ドル)	21,917.16	27,781.70	26,501.60	29,638.64	30,606.48
外国株式	ドイツDAX (ポイント)	9,935.84	12,760.73	11,556.48	13,291.16	13,718.78
	ドル/円 (円)	107.96	105.53	104.54	104.27	103.25
為替	ユーロ/円 (円)	118.45	123.75	121.78	124.73	126.33

◇ベンチマーク収益率

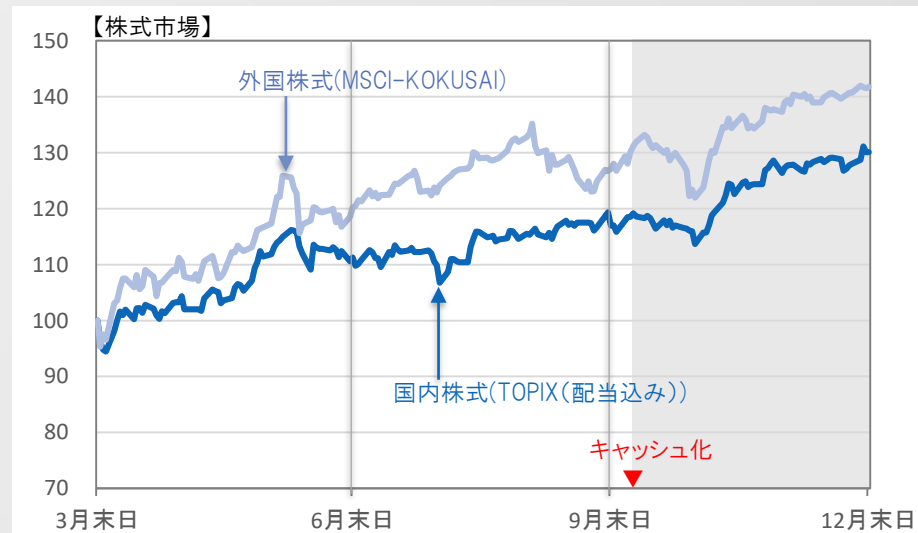
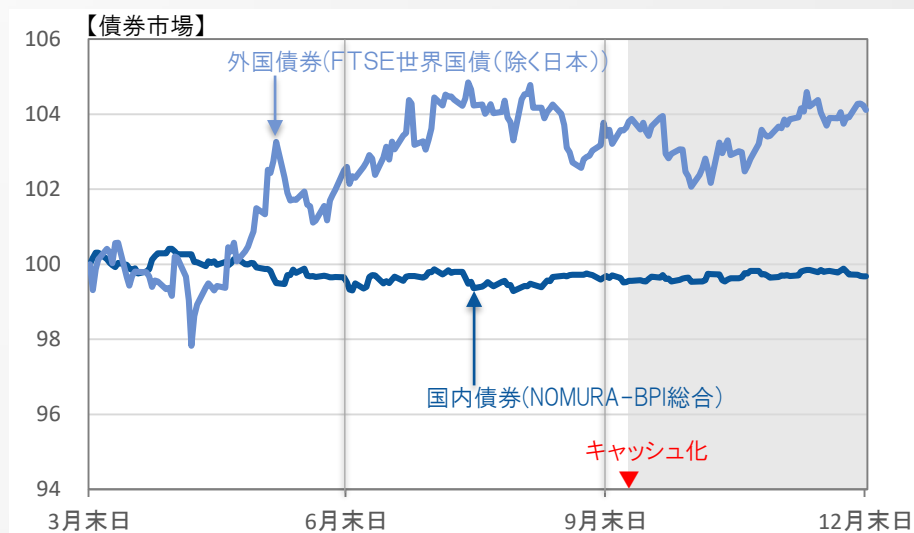
	2020年10月～12月
国内債券 NOMURA-BPI総合	0.00%
国内株式 TOPIX(配当込み)	11.19%
外国債券 FTSE世界国債(除く日本)	0.67%
外国株式 MSCI-KOKUSAI	11.50%

(注)ベンチマーク収益率は、期中のキャッシュフローを考慮しない収益率

市場ベンチマークの推移(2020年度 第3四半期) 9月末=100とした市場の動き



市場ベンチマークの推移(2020年度 通期) 3月末=100とした市場の動き



2. ファンド別資産クラス別収益率・収益額の状況

(1) パッシブ資産

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	5.69	4.74	2.02	0.89		7.32
国内債券	0.40	-0.67	0.19	-1.26		-0.80
国内株式	16.19	12.03	5.18	5.60		26.49
外国債券	4.61	3.07	0.82	1.75		5.69
ヘッジ外債	6.20	1.21	0.60	0.45		2.55
外国株式	19.66	16.86	5.73	13.90		38.45
短期資産	-0.02	-0.04	-0.01	0.00		-0.02

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	93,020	102,271	52,312	25,500		180,083
国内債券	2,118	-705	233	-181		-652
国内株式	40,482	18,980	10,891	2,952		32,823
外国債券	5,746	3,258	1,031	378		4,668
ヘッジ外債	10,064	15,114	9,133	1,119		25,366
外国株式	34,688	65,689	31,029	21,347		118,065
短期資産	-77	-66	-5	-115		-186

(2) オルタナティブ資産

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益率(%)	1.52	0.70	1.58	0.19		2.47
みずほ信託	2.88	0.00	2.24	0.00		2.24
第一生命	—	0.60	0.35	0.17		1.12
りそな銀行	-0.08	1.66	1.99	0.42		4.07

	2019年度	2020年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度通期
収益額(千円)	3,306	2,258	5,063	617		7,938
みずほ信託	3,388	0	2,709	0		2,709
第一生命	—	600	351	168		1,119
りそな銀行	-82	1,658	2,003	449		4,110

(参考) オルタナティブ資産のプロダクト

みずほ信託：私募REIT（丸紅プライベートリート），第一生命：マルチアセット（第2総合口），りそな銀行：マルチアセット（総合口N）

3. 運用資産額・構成割合

(1) パッシブ資産

	資産額 (千円)	構成割合	基本ポートフォリオ	
			中心値	許容乖離幅
国内債券	0	0.0%	5%	±2%
国内株式	0	0.0%	8%	±2%
外国債券	0	0.0%	5%	±2%
ヘッジ外債	0	0.0%	59%	±4%
外国株式	0	0.0%	20%	±4%
短期資産	2,794,463	100.0%	3%	±3%
合 計	2,794,463	100.0%	100.0%	

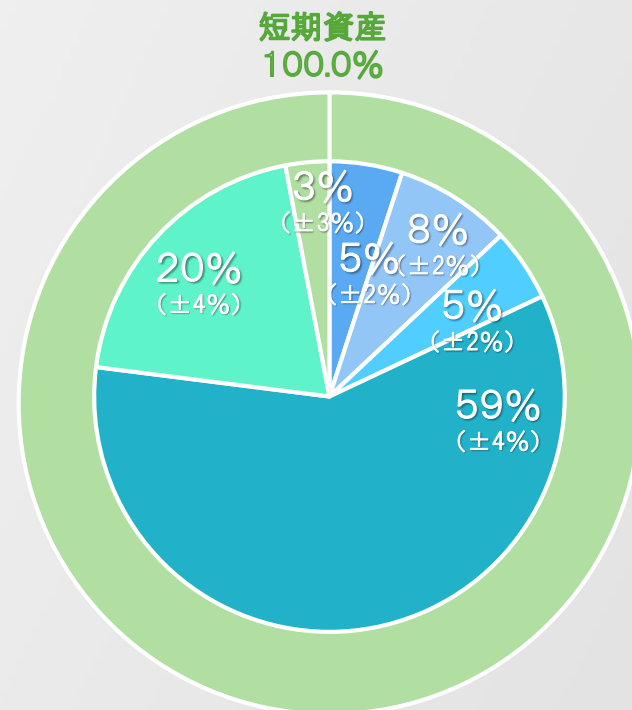
(注) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(2) オルタナティブ資産

	資産額(千円)
みずほ信託	123,661
第一生命	101,119
りそな銀行	104,028
合 計	328,808

(3) 資産全体

	資産額(千円)
パッシブ資産	2,794,463
オルタナティブ資産	328,808
合 計	3,123,271



内側：基本ポートフォリオ（カッコ内は乖離許容幅）
外側：2020年12月31日時点

※2020年10月8日付で資産のキャッシュ化ルールを適用したことに伴い、パッシブ資産の第3四半期末の資産構成は基本ポートフォリオから一時的に大きく乖離しています。
なお、オルタナティブ資産についても、みずほ信託の私募REITを除く2つの資産は短期資産（キャッシュ）に振り替えています。